

A群溶連菌感染症 Jun 2nd 2000

1. 潜伏期

A群溶連菌による咽頭炎もしくは扁桃炎の潜伏期は短い。(12時間から4日間)

2. 臨床症状

発症は急で、発熱・咽頭痛・頭痛（もしくは腹痛も）を主訴とする。浸出物は50～90%に認められ、たいてい第2病日にはポツポツとした（discrete）黄白色の浸出物がみられるが次の日にはひとかたまりに（confluent）になることが多い。発熱は扁桃周囲膿瘍を合併しない限り、3～5日で突然終わる。（抗生素の治療をしなくても）

猩紅熱の発疹は点状で体幹から始まり数時間から数日で全身に広がる。

3. 合併症

咽頭炎後の急性糸球体腎炎の潜伏期は10日間、リウマチ熱の潜伏期は18日間である。

膿瘍疹後の急性糸球体腎炎の潜伏期は3週間である。

（A群溶連菌による膿瘍疹後にはリウマチ熱は発症しない。）